

すず若者意見交換会 意見一覧表 (令和6年9月20日現在)

復興計画 (案)

基本方針2 暮らしとコミュニティの再建

施策2-1 暮らしと住まいの再建

- 2-1 家族みんなで一緒に暮らしたい。
- 2-1 珠洲にいたい、珠洲で暮らしたい(衣食住が満たされて、安心安全な、生き生きとした)。
- 2-1 珠洲が好き、珠洲とのつながりを続けたい。
- 2-1 珠洲の家のリフォームを始める。
- 2-1 市民のつながり強化と若者の主体的な活動が必要。
- 2-1 親のサポートをする(親が生き生きと珠洲で暮らせるように)。
- 2-1 まちや地域が消えない、地域ごとの活性化。
- 2-1 区長以外に住民意見を集約するまとめ役が必要。世代交代の時期。区長には言いにくいことだってある。
- 2-1 市の復興のために、地元若者だからこそできることを進め、珠洲を盛り上げる一員になる。
- 2-1 地域(在所)を超えたつながりが必要。例えば、A町で解決した課題をB町ですぐに解決できるように。
- 2-1 協議団体など復興について話し合い、行動するための団体が必要。
- 2-1 黒瓦のまちなみ再建。町の景観は自然や地形、文化などからできている。
- 2-1 町の景観をどう維持し、合意形成していくのか、みんなでつくっていくのが課題。
- 2-1 珠洲に住む人(住んでいた人)たちの納得感が高いカタチの復興を考える。
- 2-1 今の珠洲に必要なのは、ファシリテーター。

施策2-2 祭りの再開支援、文化財の再建

- 2-2 文化の存続、祭りの再開(再建)。祭りは重要、祭りがしたい。

施策2-3 子育て支援の更なる充実

- 2-3 珠洲の復興には子ども中心の考えが必要。
- 2-3 出産可能な医療体制が必要。珠洲では出産ができず、健診も受けられない。市外で産んで戻ってきてくれでは辻褃が合わない。

施策2-4 学びの環境の再建

- 2-4 学校の統廃合を希望する。
- 2-4 子ども世代への投資が大切。例)スポーツができる場所、地域クラブづくりなど
- 2-4 子育て、教育、子どもたちの人材育成に取り組むことが大切。
- 2-4 保育園児など今後珠洲を継ぐ子どもたちが、珠洲をふるさとだと認識する前に離れてしまっていることが大きな問題である。戻ってしやすい教育環境を整える。
- 2-4 学校教育において、自然と地域とのつながりがあることを大切にしたい。
- 2-4 子育て世代にアンケートはとったか?取っていないため、取る必要があると考える。
- 2-4 行政と市民で学校や子育て環境について議論する場が必要。
- 2-4 珠洲で子育てしたいとは思えない。いろんな物事や経験の機会が少ない。
- 2-4 特色のあるコミュニティスクールを伸ばしていく。
- 2-4 学校教育では、最低限の読み書き計算、社会性(コミュニケーションの力)など義務教育の質を上げる。
- 2-4 どうやったら珠洲を好きになるか=郷土愛の醸成を学校や地域でどう行うか。<郷土愛の3つのポイント> 地域のことをよく知ること、知った上でそれを作りあげた先人に感謝すること、その地域づくりに自分がちゃんと関わること。
- 2-4 地域と連携し郷土愛の醸成は地域で行う。
- 2-4 昔から変わらない子どもの評価制度が微妙だと感じる。例えば、図工に5段階評価をつけるとか。新評価制度があってもいい。
- 2-4 先生に期待しすぎ、まかせすぎな保護者が多いと感じる。過度な期待が先生のプレッシャーになっている。学ぶことについて、先生も生徒も保護者も互いにフラットでリスペクトが必要。
- 2-4 いまの学校では行かせたいと思わないので、教育移住とかを考えるならまち全体でつくっていかなければならない。前と同じことをやっていくのであれば、20~30年変わらないまま繰り返していく。
- 2-4 制服はなくてもいいのでは?
- 2-4 一人ひとり保護者と面談をして通知表を渡すことはとても丁寧。都会だとそうならないのでは。
- 2-4 子どもの想いに「できない」ではなく、できるようにするにはどうしたらいいか考えたい。
- 2-4 子ども目線の意見を大事にしたい。例えばアンケートとか。

すず若者意見交換会 意見一覧表 (令和6年9月20日現在)

復興計画 (案)

2-4	セーブザチルドレンのアンケートを参考にしよう！遊ぶ場所がなくなったとか、こういうことがしたい！とか書いてある。
2-4	地域の人の顔が分かるとやっぱり安心感がある。
2-4	子どもは親の影響を受けやすい。親がいまの珠洲をどう思っているのかが重要。珠洲を好きになるにはどうしたらいいか。自分たち大人が生き生きとして、人任せにせず、ちゃんとやるのが1番なのでは。
2-4	今珠洲に居る子も、兄弟が進学するタイミングで市外へ行くとか次の子が生まれる頃に市外に行くとか、そういう話を結構耳にする。
2-4	子どもたちが奪われてしまった公園や運動場の代わりにするものを探す。
2-4	里山里海の活動と子どもの学びをどうつなげていくか。
2-4	大人と話したい、学習機会が欲しいという要望がある。ちゃんと応えるような体制が喫緊の課題。たくさん子どもたちが集うにはどうしたらいいかを考えないといけないんじゃないかな。
2-4	変わった大人（一般的な仕事ではない生業をもつ）やモノに触れるチャンスがあるといい。面白い大人やロールモデルとなる人が少ない。⇒よりすぐりの変わった大人がいま珠洲に来ていて、そういう人に出会えるチャンス。
2-4	自分で切り開いていく力（人間力のようなもの）が必要。先生に言われたから、みんながやっているから、ではなく自分で考えてとなげかけていくことを大切にしている。
2-4	移住定住促進や人口減少に抗うために、子どもたちに還ってきてほしいと思うのは郷土愛の搾取につながると良くない。本人の幸せや自己実現のための郷土愛と考えたい。
2-4	子どもに多くの選択肢を与えたいと思う一方で、限られた環境の中でどうするか生きていく力を養うことも大切（例えば、冷蔵庫にあるものだけで料理をつくる感覚）。
2-4	人間力と新しい価値を生み出す力とコミュニケーション能力とチャレンジ精神を養う。
2-4	「集約化しつつもコミュニティは維持された町」珠洲の生業、文化、自然が次の世代にも受け継がれてほしい。
2-4	良く聞く意見として、同じ境遇で顔見知りが多い場所は多少不便でもずっと住み続けたい場所になる。一方で僻地に一人で暮らしていると除雪や草刈りなど維持管理コストがかかる。学校も分散しすぎると同級生がいなくてキャッチボールもできない。適度な集約化と分散化が実現してほしい。
2-4	小学生は大人と良く話す子と地域との交流が全然ない子とでは感覚が違う。たくさん大人と関わって学ぶことが多かったのだと思う。フェーズに応じて子どもの教育も変えていく必要があると思う。
2-4	学校を見ているとそんなに多くは変わらないのかなと思う。
2-4	少人数がネガティブではなく、ポジティブにとらえられるようなものってないのかな。
2-4	10年、20年後に中心になる子どもたちが大事。復旧復興が完了してからでは遅い。
2-4	ふるさとを好きになれる教育を大切にしてほしい。
2-4	子どもたちが珠洲で過ごして、仲間と思い出をつくれる環境を大切にしたい。
2-4	珠洲の良いところを残したい。子どもが震災後市外の学校（30人/クラス）に行ったが、やっぱり珠洲の学校がいいと言って戻ってきた。少人数の方が雰囲気良かった。
2-4	義務教育学校に魅力がある（珠洲に義務教育学校が出来たと聞いてUターンした）。少人数の丁寧な指導など。一方でできた当初より魅力が薄まっている（先生方の入れ替わりによる意識の希薄化？）
2-4	人数が1ヶ台は少ない。一人ひとりの役割が多い。先生の目が行き届きすぎて自主性が育ってなさそう。できることが限られるという課題はある。
2-4	自主性、当事者性、郷土愛、多様性などがキーワードとなる。
2-4	学校教育について中長期的に考える視点を持つ。全国の先進事例から学び、考え、話し合いながら模索したい。先進事例のコピペではなく、珠洲ならではの環境をつくる。
2-4	珠洲ならではのオリジナリティ（特色）の追求を大切にしたい。
2-4	学校や教育環境を話すことは、子どもたちの大事な時間を考えること。行政だけでなく、市民の参画ができるよう促し、一緒につくりあげていきたい。
2-4	先生方も楽しく、ポジティブに働ける職場環境になればいい。ポジティブにコミュニケーションをとることで、子どもたちにもいい影響があるのでは。
2-4	統合とか、大人数、少人数など正直どうでもいい。形より中身。環境が大事。人口や市の財政状況等の都合により変わっていく。子どもたちに寄り添える、先生が楽しく働ける、子どもたちの知性を伸ばす、尊重する環境。それも、いまではなく数十年後の知性を伸ばしてあげられる環境をつくりたい。
2-4	リーダーを育てる教育。（氷見市を参考）みんながリーダーを経験する環境が大事。
2-4	子どもたちが意見を言い合うときは大人数の方がよさそう（多様な価値観に触れる機会）。例えば日頃いろんなところにいる子どもたちがオンラインで交流し、必要に応じて1か所に集まるような体制をつくる。
2-4	部活の選択肢がない⇒スポーツクラブがあってもいい。運動部・文化部の地域移行が進めば地域との交流が盛んになり、豊かな環境になるのでは。
2-4	自然環境と人と人との距離が近いことが良かった。
2-4	都会と田舎の交流。都会の方が選択肢はある。相互に体験する機会があるとよい。
2-4	学校統廃合について、すぐに統合をするのは現実的ではないが、現状を放置していい訳でもない。ハード面はすぐに対応できないものの、ソフト面での何かしらの工夫や対応が必要。
2-4	市公認のオルタナティブスクールの実現。学校それぞれに特色があり、選べるようにしたい。
2-4	学校が統合したら地域で育てられるような仕組みを、分散したままなら、例えば体育の授業だけは全校集まってやるなど、どちらのカタチになっても、課題に対して解決する方法を確実に取っていくことが大切。
2-4	学校統合のいいところは、①子どもが集団の中で多様な価値観に触れ協力し合い切磋琢磨することで能力を伸ばすこと、社会性を身に付けること②友人が増える③部活動の選択肢や集団学習が満足にできる。地域に残るいいところは、自宅からの通学距離が近い。
2-4	いま、珠洲を出た家族（子どもたち）が戻ってくるにはどうしたらいいか考えたい。いま、珠洲にいる子育て世帯が困っていること、不安に思うこと、こうなりたいと思う声を拾い、その環境を整えることが重要。

すず若者意見交換会 意見一覧表 (令和6年9月20日現在)

復興計画 (案)

2-4	今珠洲に残っている人は公務員も多い。公務員は声を上げにくいのでは無いかと思うので、そういう保護者の意見を集められないかなと思う。教育のプロの見解をもらいながら話し合っていきたい。
2-4	航空学園のように県外から子どもたちが夢のために進学している。珠洲の良さや魅力を活かして専門学校など設立できればいいな。
2-4	「応答性」を大切にしたい。声を聴くこと、声にならない言葉を受け止めること、動くこと。
2-4	動ける、遊べる場づくり(グラウンド含む)など、今の子どもたちに対してできることを早く対応していく。空き地に土管があるでもいい。子どもたちと一緒に遊び場をつくれるといい。森なのか、畑なのか、交通手段は大人が考える出番。
2-4	周りの子育て世代に聞いてみた。<珠洲を出るか迷うポイント>安全な遊び場がない。放課後両親が帰るまでの居場所がない。少人数すぎて良い環境ではない。一刻も早く学校統合してほしい。
2-4	学校がすでに統合されて無い地域、例えば狼煙地区などは地域として廃れているかというところではない。むしろ主体的に活動されていて元気な地域だという印象。そこに住む個人の影響もあるだろうけど。一方、直地区は人は多いけど、アクションは起こせていない。どの地域も潜在力はあって、アクションを起こすコト、人が大切。
2-4	子どもの困っていることを一番知っている先生方の意見を、声を拾うことが大切。
2-4	都会は塾やクラブがあり選択肢はあるけど、珠洲にはない。教育格差=親の収入なんて言われたりするけど、それを珠洲でどうやって、学校教育と、地域と、家庭で役割分担してやるか。学校教育ではとにかく基礎学力を身に付けることが重要で、その他のことは地域でやろう！とか、学校教育に多くを求めすぎない。全国的にも先生は大変と話題が上がっているから、どうやって分担するかが重要。
2-4	先生たちの現場の声がここに無い。でも声を上げにくいかなと思う。現場で考えたり、悩んだり、試行錯誤していることがあると聞いている。また、学校が分散していて、先生一人の役割が多い。生徒指導とか教務主任とか、そっちで手一杯で勉強を教えたくてもその業務に追われていたり、調理員も不足している。学校運営体制にガタが来てる印象がある。
2-4	以前、PTAの立場で先生方にどういう考えがあるかと聞いたが、管理職を通さなければ答えられないと言われたことがある。本音の話が聞けない。管理職だけで色んなことを決めている感じがする。
2-4	自分の意見や気持ちを安心して発信できる、表現できる環境がすごく大事だと感じる。自分と違う意見や環境に対して理解しようとする気持ちや姿勢を見せることが未来にとって大切。
2-4	(子育て世代に) アンケートを取れば良いと頭でっかちになってたけれど、色んな人の意見を聞いて仕切り直せばいいなと思いました。
2-4	保育士さんの意見も聞ければいいと思う。
2-4	本会のスピンオフのようなかたちで「教育」をテーマにした会を今後も継続して開催できればよい。
2-4	地域の私たち一人ひとりが子どもたちの未来を考えていくことが大切。
2-4	地域に育てられたと感じるから戻ってきた。そういう環境が大切。
2-4	子どもと地域の関わりはとても大事だと思った。学校は地域のモノではなく、子どもたちのためのものだと感じた。
2-4	子どものためには、ゆったりとした時間が大切。それが子どもの主体性を生む源になっているという風に考える。親子議会やセーブザチルドレンのアンケートを見ていると、子どもたちが自由に遊べなくなった場所に代わる何かがあると思う。

基本方針3 生産性の向上を図るなりわいの再建

施策3-1 被災した事業施設等の早期復旧・復興支援

3-1	事業再建目処をたてること。事業再建による復興の基盤づくり。
3-1	あみだ湯のような人が集まる場所を守っていききたい。大切にしていきたい。
3-1	自分の生活基盤を整え、自分の活動をちゃんとやること、特技を磨くことが大切。

施策3-2 事業再建までの支援

3-2	「仕事を失った」「お店をやりたいけどもできる状況じゃない」などの問題を抱えている。
3-2	失職者への支援が必要。

施策3-3 農林水産業の再建

3-3	海、船、港の安全確保。
-----	-------------

施策3-5 商店街・市街地の再建

3-5	空港付近に新たな町ができるのは面白い。奥能登2市2町で復興を考える必要がある。行政同士での連携が難しくても民間同士なら可能か。
3-5	仮設店舗を利用できる事業者を新設会社もOKにして欲しい。

施策3-7 新たな事業の創出

3-7	スタートアップ企業への補助金の支援。
3-7	仕事の選択肢が少ないことが課題。(土木関係や公務員がおおい)
3-7	有名企業誘致による求人増加(人と土地の整備)。
3-7	珠洲で何かをやりたい人は大勢いると思う。
3-7	大地震に被災した今こそ新たな未来に向けて舵をきるチャンス。
3-7	林業×写真による場づくり。

すず若者意見交換会 意見一覧表 (令和6年9月20日現在)

復興計画 (案)

基本方針4 これまでの取組みを活かした魅力ある地域の再生

施策4-1 移住・定住の促進

4-1 若い人が増えること、移住者が増えること。

4-1 子どもも高齢者も住みやすいまち。

4-1 珠洲市外にいても珠洲と繋がっていたい。

4-1 珠洲が人口3万人まで増えるといいな (増えてもいまの良さは失われない)。

施策4-4 世界農業遺産など「珠洲ブランド」の価値向上

4-4 里海里山が守られる、自然と共存しているきれいな珠洲。

4-4 珠洲の魅力は豊かな自然と人。

基本方針5 DXの推進による「つながる社会」の実現

5 都市的になりすぎると魅力 (自然や人間らしい営み) が減る可能性がある。

5 子どもによりIT (情報) 格差があると感じる。インターネットをうまく使える子、使えない子と格差ができないようにしたい。

5 やむなく市外へ出た世帯や子どもたちとの交流の機会があるとよい。(転校先の学校と珠洲の学校がオンラインでつながる、一緒に授業を受けるなど)

行政や会についての意見

<行政への意見>

- ・行政と市民間のコミュニケーションが必要。
- ・市民の声をどう反映させるのか。
- ・市民の意見が反映されていることが分かる仕組みづくり。
- ・場所づくりをしている人を行政が評価し、発信する。
- ・外部の人が入って地域の声をまとめていく。
- ・市から委託する (声を拾い反映する人を大学生や専門家をお願いする)

<本会への意見>

- ・本会を定期開催、継続開催してほしい。
- ・ファシリテーターや議事録係、時間管理が必要。
- ・本会に参加する人集めが必要。
- ・本会を発端に行動する人 (事業活動) が出てくればよい。
- ・本当のローカルな人たちはこのような会にこない。その人たちの意見をどうやって拾うのか。(青年団やJC、消防団など若い声を集める)
- ・オンライン開催時の運営方法に工夫が必要。
- ・運営ボランティアを募集する。
- ・一つのテーマで議論すると関係して繋がっているテーマについて話しにくい。
- ・会のゴールが見えるといい。
- ・自分のことについて考えさせられた。
- ・色々な人の意見を聞いてよかった。
- ・安心して意見を話すことができた。
- ・若い世代の意見を聞いて良かった。若い世代の声を集めていくことが必要。